



学校内オルタナティブ教育に関する実証

株式会社 城南進学研究社

株式会社 JMC

横浜市立鴨居中学校

目次

- 本事業の背景と目的
- 事業の概要
- 実施内容
- 本実証で得られた成果
- まとめ・今後に向けた示唆
- その他の成果物一覧

本事業の背景と目的

「個別最適な学び」において、ICTが有効活用できることを実証する。

実証対象は、

- a. 不登校・不登校傾向の生徒
- b. 一斉集団指導で取り扱う單元以外に学び直しを必要とする生徒（放課後学習支援）とする。

不登校・不登校傾向にある生徒に、ICTを活用した「教室」以外の場における、個別学習計画の作成や学びの場を提供する。そして、学校との連携のもと、出席や学習評価へ反映させる。

そのことにより、義務教育の場においても児童生徒の才能や能力に応じて、それぞれの可能性を伸ばす「個別最適な学び」が可能であることを実証する。

鴨居中モデル

<目標>

個別学習計画の作成

ICTを活用した「教室」
以外での場作り

出席認定

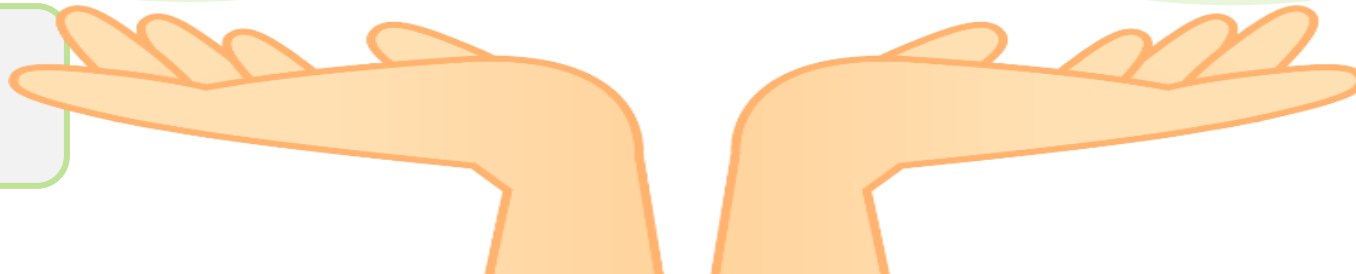
学習評価への反映

学びの柱
EdTech教材

学びの支え
先生・支援員

学びの環境
タブレット・N/W

<必要な手立て>



事業の概要

①和ルーム（学校内特別支援教室）にて、支援員を配置し、ICT教材の学びの支援を行う。また、デキタス利用者には希望があれば「個別学習計画」の作成と支援。計画に沿った個別最適な学びを提供する。

②PBL（話し合い学習）の実施。生徒同士で身近なテーマについて話し合いを定期的に行う。和ルームに登校していない生徒も、zoomを利用し家庭からの参加も可能とする。

③アウトリーチによる学習支援。（次項参照）

和ルームに登校できない生徒を対象に、家庭訪問を実施。生徒・保護者にStudyplusを使用し、チャット機能を利用したコミュニケーションを図る。

④理解度や進度が様々な個別支援学級内で、個別最適な学びの提供。ICT教材活用の有効性を実証する。

実証校：横浜市立鴨居中学校

実施体制：

- ・ICT教材「デキタス」の提供：株式会社 城南進学研究社
- ・ネット環境整備及び学習支援員配置：株式会社 JMC
- ・アウトリーチ実施による訪問員派遣：教育支援協会南関東

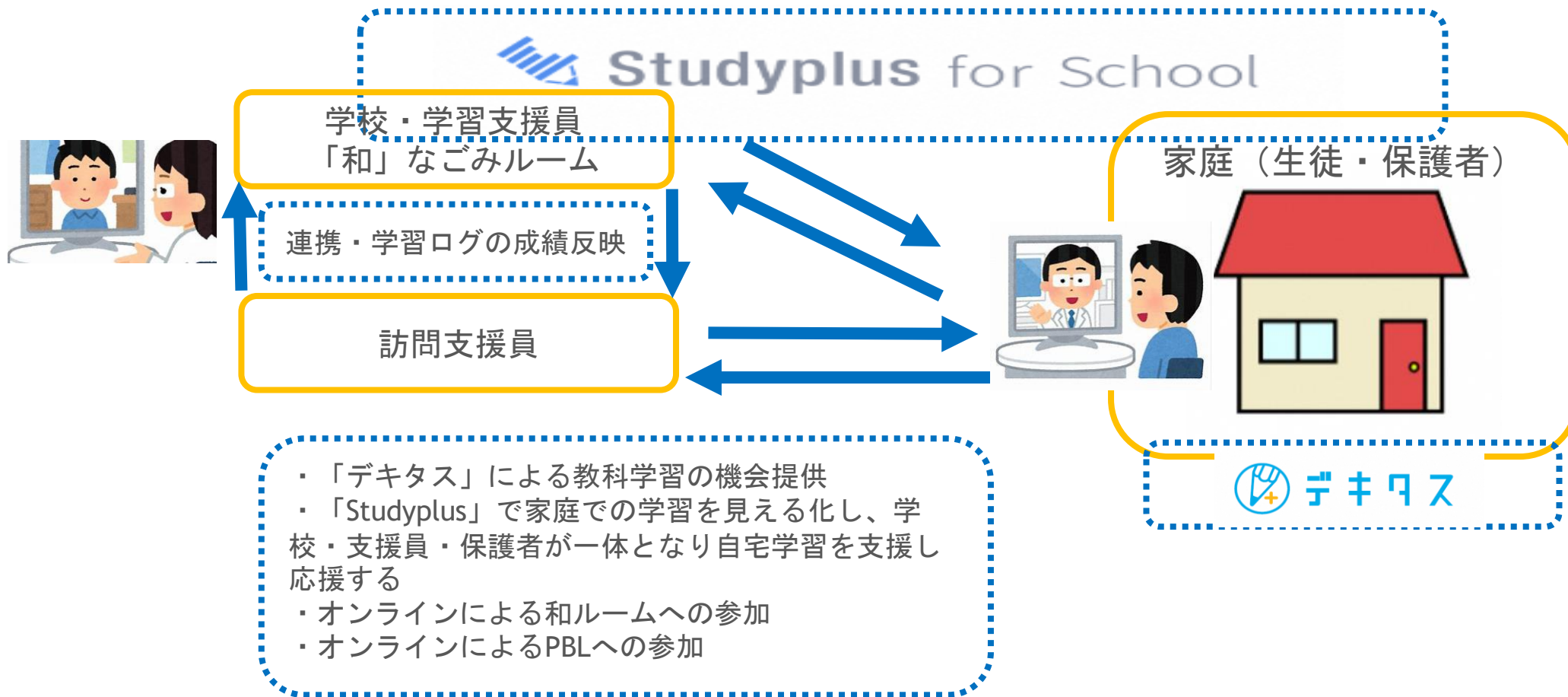
実施スケジュール：2020年9月～2021年2月



事業の概要

アウトリーチに関して

学校への登校を前提としないため、「デキタス」に加えて新たなICT学習管理&コミュニケーションツール「Studyplus」を導入。和ルームの空間を飛び越えて生徒の学びと先生、支援員、保護者をつないでいく。



実施内容（学校の取り組み及び準備）

①環境（設備）

ネット環境：iPad10台・Wi-Fi4台

学習環境：机・椅子（ブース型の机。集中しやすい）、備品（机用ホウキ・ちり取り、加湿器・観葉植物など）

ソフトウェア：デキタス・モノグサ株式会社「Monoxer（漢字テスト）」・ジャパン・トゥエンティワン株式会社「Code Monkey（プログラミング）」・株式会社Playground「Playgrounds（プログラミング）」・合同会社デジタルポケット「viscuit（プログラミング）」・Apple社「Garage Band（音楽制作アプリ）」

コミュニケーションツール：ロイロノート・ホワイトボード・カードゲーム

個人ファイル（デキタス使用時に「デキタスノート」と学習計画表をファイリングするため）



このように机に仕切りがあると集中しやすい。



カードゲームは、休憩時間に支援員や他の生徒と交流するツールとして使用。

Point !

快適なネットワーク環境と多様なEdtech教材。

実施内容（学校の取り組み及び準備）

②環境（人員A）：学習支援員

○民間企業（株式会社JMC）：毎週火曜・金曜9:00～17:00 週2回

○年度途中で加配された非常勤講師：毎週月曜～木曜9:00～12:30 週4回

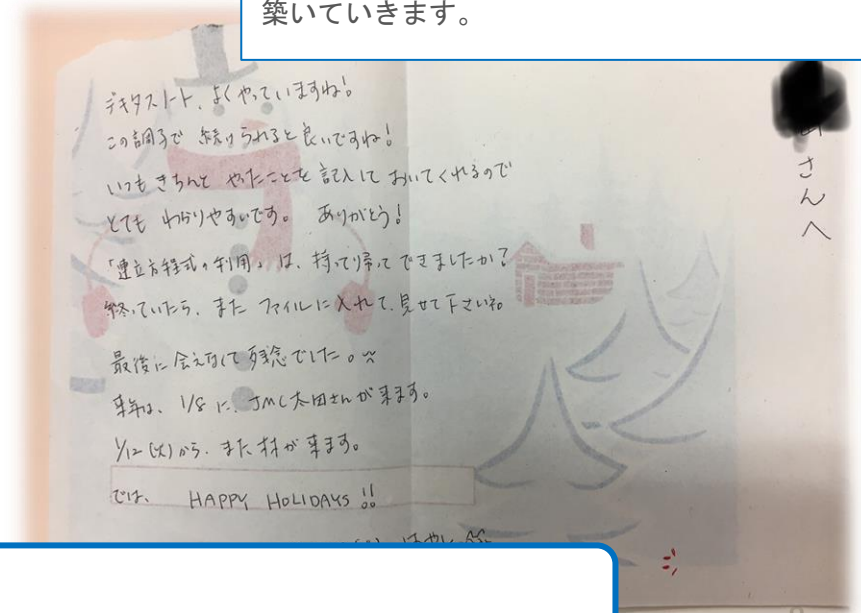
【支援員の役割】

- ・生徒に寄り添い、学習のサポートをする（集中できていない生徒への声掛け・会話を通じて精神面のケア）
- ・先生方と連携して、生徒の情報共有/相談
- ・学習計画の作成及び進捗チェック
- ・生徒の自立への促し（挨拶・1日の学習予定記入・学習時間管理・整理整頓など）

【先生や支援員のサポートに対して（生徒アンケートより）】

- ・今まで話す機会がなかった先生と話せた（きっかけを作ってくれた）
- ・トラブルが起きた時に、アドバイスをくれたり慰めてくれた
- ・勉強を計画的にできた

支援員から生徒へのお手紙
普段、言葉を発さない生徒でも手紙の隅に、
「見ました」の印があります。
少しずつコミュニケーションを取り、信頼関係を
築いていきます。



Point!

決まった日時に学習支援員を配置

実施内容（学校の取り組み及び準備）

②環境（人員B）：訪問支援員※各ご家庭に訪問

教育支援協会南関東より派遣 1回90分

【訪問支援員の役割】

- ・生徒と保護者の関係調整
- ・家庭において生徒に寄り添い、学習のサポートをする
- ・先生方と連携して、生徒の情報共有/相談
- ・学習計画の作成及び進捗チェック
- ・生徒の自立への促し（学習の準備・学習計画の確認・次回の訪問日程の調整・将来への展望）

【先生や支援員のサポートに対して（生徒アンケートより）】

- ・わからない分野を教えてくれたり、色々手助けしてくれた

Point !

学校単位でのアウトリーチ 初の試み

実施内容（学校の取り組み及び準備）

③生徒・保護者への告知方法

告知方法は全校保護者宛に文書で通知。

各学年ごとに候補者をリストアップし、全校保護者に告知した後、

希望者から、対象生徒を絞り、候補者18人中10人が

和ルームで定期的に学ぶようになった。

不登校及び長期欠席傾向にある生徒は和ルームで、

個別最適な学びができることにより、

鴨居中学校の不登校は3.5%となっている。（横浜市不登校は4.9%）

Point !

対象生徒だけでなく、全校に周知したことで、不登校傾向の生徒だけでなく、学習に不安を持つ生徒にもアプローチが可能。

鴨居中ダブルアクション！
特別支援教室での支援+アウトリーチによる支援
~2020 経済産業省「未来の教室」実証事業~

<本校の実態>
・不登校生徒の出現率はH29 5% → H30 3% → R01 4%とほぼ横ばい状態である。
・その他の長期欠席の内訳は、起立性調節障害と診断されている生徒がほとんどである。
・R01は、和(なごみ)ルームでの学習支援が主体であったが、今年度は学校が行うアウトリーチ(訪問による学習支援)を行うことにより、長期欠席・不登校生徒に学びの機会を保障する取組を進める予定。

<取組の具体>
・和(なごみ)ルーム → 火・金に学習支援員(民間)が、9時~17時(希望者)オンライン学習システム「デキタス」による学習支援、学習計画作成への助言
・アウトリーチ → 2名の生徒に対し1回、訪問支援員(民間)が家庭訪問 「デキタス」の支援、学校と家庭のつなぎ役
・情報共有のプラットフォーム「Studyplus」を活用 チャットで保護者と生徒とやり取り
・支援員と学校との定期的な情報交換 → 専任がコーディネーター(担任)との共有 特別支援coと連携co
・訪問支援員は、教育支援協会南関東が採用し、派遣

<スケジュール>
☆9月からスタート 支援員研修開始 ☆アウトリーチ対象者決定 ☆各家庭との連携 ☆PBL(話し合い学習)プラン検定 → ☆10月 市内デキタス採用校と情報交換 保護者相談会の実施 → ☆11月 福山市立城東中学校へ訪問 → ☆1月 事例集とマニュアル作成開始 → ☆2月成果報告書作成開始 → ☆3月 総括会議 成果報告会への参加

<それぞれの役割>

・生担当専任	・事業全体をコーディネート、日々の学習ファイルの管理
・学級担任	・家庭との連絡、学習状況の把握、支援員との情報交換
・担任主任	・科目ごとの連携、情報収集
・特別支援co	・個別の支援計画の作成指示、日々の学習ファイルの管理・連携
・学習支援員	・「デキタス」の操作、学習方法支援、学習計画作成支援
・訪問支援員	・家庭訪問し、「デキタス」による学習支援
・城南進学研究社	・システムの提供
・株式会社MIG	・インターネット環境の整備(タブレットとルーター貸出し)
・教育支援協会南関東	・各支援員の採用と派遣

<期待される効果>
・学びの保障 「デキタス」による学び直し → with支援員
・家庭の実態把握と学校からの情報伝達 → 互補にスムーズに
・保護者の悩みや困り際の把握 → 教育相談の充実

保護者様

令和2年9月2日

横浜市立鴨居中学校
校長 齋藤 浩司

ICTを活用した学習支援についてのお知らせ

初秋の候、保護者の皆様におかれましては本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。

昨年度に引き続き、鴨居中学校では経済産業省「未来の教室」実証事業に参画し、令和3年2月末まで、以下のように学習支援を始めます。ねらいをご理解のうえ、ご協力をお願いします。

- ねらい
 - ・ICT教材(デキタス)を活用した学習の場と機会を提供することにより、学習内容や学習時間を計測し、今後の学習支援の一助とする。
 - ・学習支援員が来校し、学習支援を行う。(学習支援員は関連会社が採用します)
- 関連会社と教材名
 - 株式会社城南進学研究社 ICT学習教材「デキタス」(教科書対応)
 - ※「デキタス」は、インターネットを通じて、自学自習するシステムです。
 - 学校ではタブレットを使用します。5分程度の動画を見て、画面上の小テストを行ったり、確認プリントを作成したりします。家庭でもインターネット環境があれば使用できます。
- 学習支援の方法
 - (1)学校において…特別支援教室(「和」なごみルーム)や別室で、タブレット等を使用。
 - (2)家庭において…家庭のpcでインターネットを利用。
- 対象生徒
 - (1)今後、特別支援教室(「和」なごみルーム)での学習支援を希望する生徒。
 - (2)放課後(火・金)15:30~17:00 特別支援教室で学習を希望する生徒。
- 新規申し込みについて
 - ①担任へ申し出る → ②全体で集約 → ③決定 → ④保護者へ連絡
 - ※新規申し込み締め切り 9月8日(火)

実施内容（学校の取り組み及び準備）

入室から支援までの流れ

学校側の準備



Point !

入室までの手順を明確化することで、適切な支援が可能。
特に「体験入室」があることで、校内の先生方の協力が強固しやすくなる。

実施内容（個別学習計画の実例①）

b.長期計画

デキタスで学習をしている生徒が希望した場合、1か月先～3か月先を見越して「個別学習計画」を作成する。

これは「達成」が目的ではなく、生徒本人が「好きな科目」・「克服したい苦手科目」など、取り組みたい学習に関して自ら計画を立てることに意味がある。

支援員及び教員との面談を通じて、本人の「取り組みたいこと」を聞き出し・引き出し、一緒に作成する。

和ルーム利用者8名中6名が作成。

○1か月ごとの計画を立てた生徒：4名

1名は中3生の受験学年。本人の希望は「社会に出ても困らない学力」。

算数を小2からスタート（城南進学研究社）

2名は定期テストで点数を取りたいと希望があり、学校の進度に合わせて数学の計画を作成

（城南進学研究社）

最後の1名は支援員と数学と英語のカリキュラム表を見ながら、自分が苦手な分野で

支援員単元を書き出して計画を作成。（JMC）

📅 10月		📅 11月		📅 12月	
教科	単元	教科	単元	教科	単元
小4 算数	19. 立体 📅 10/29 テスト	小5 算数	16. 面積(2) 台形と三角形 📅 11/4 テスト	小5 算数	6. 図形(1) 合同 📅 12/5 テスト
小5 算数	15. 面積(1) 平行四辺形と三角形 📅 10/30 テスト	中2 数学	1. 式の計算 📅 11/5 テスト	小5 算数	7. 図形(2) 角 📅 12/5 テスト
中1 国語	10. 漢字とことば ノート テスト	中2 数学	2. 文字式の利用 📅 11/6 テスト	中1 英語	1. Let's Enjoy English! 📅 12/3 テスト
	ノート テスト		ノート テスト	中1 英語	2. Hi!! 📅 12/4 テスト
	ノート テスト		ノート テスト		ノート テスト
	ノート テスト		ノート テスト		ノート テスト

支援員と話をして苦手な範囲を書き出してもらった。
月末には達成した内容を確認して、シールを自分で貼る。

Point! それぞれの取り組みたいことを聞き出し、引き出し、書き出す。

実施内容（個別学習計画の実例②）

○3カ月ごとの計画を立てた生徒：2名

2名の内1名は、昨年も作成した際に、「好きな科目（理科）」のカリキュラムを全て終了。今年度は定期テストで目標点数決め（理科）、昨年取り掛かれなかった社会の学習計画を作成した。この作成と実施に関しては、担任教員からの声掛けが学習意欲につながった。また昨年、計画表を作成したことにより、好きな理科が中3生までのカリキュラムを全て学べたことで自信がついた。そこから今年は「苦手な科目にも挑戦したい」気持ちが湧き、学習に対する意欲が上がった。

もう1名は、中2生だが中学校に入学してから1度も定期テストを受験したことがない。そのため、自分の実力がわからないとのことで、苦手な数学を小4から学び直す計画を立てた。デキタスでの学習が取り組みやすいようで、訪問員と相談の上、計画的に英語の学習にも取り組んでいる。学年末テストは1教科、学校にて始めて受験することができた。更にその様子を訪問員に話すことができた。



Point !

定期テストを目標にすると、3カ月の目標を立てることへつながる

実施内容（個別学習計画書の例）

2020 まなびたいことシート 【2学期～3学期】

氏名 _____ ID12 _____

2019 やってみたいことシート 【将来～今】

	9月		10月		11月		12月		1月		2月		来年あたりにあなたが やってみたいこと	将来あなたが やってみたいこと
	教科	単元	教科	単元	教科	単元	教科	単元	教科	単元	教科	単元		
教科の 学び			理	細胞の世界 チャ90 100 90 80 90 90 100	理	動物の行動とからだの チャ80 80 70 100	中2	動物の体のはたらき ✓ キ 90 10 90 100 チャ100	中2	大気の動きと天気の変化 ✓ 気象観測 ✓			【理科】 去年学んだことを土台にして、定期テストの得点UPを目指そう。学ぶ範囲は教室での授業進度に合わせてじっくりと深掘を。チャレンジ問題で80点超えを目指してみよう。先生からもらったプリントも継続して提出していこう。	
			理	動物のからだのはたらき 動物のなかま ✓ 70 100 チャ 50 90 100	理	動物の分類と生物の変化 チャ 100 ✓ 100	中1	細胞の世界 ✓ キミ 90 100 キ 90 チャ100	中2	大気の動きと日本の天気 ✓ 遺伝の規則性と遺伝子 ✓				
					中2	電流の働き ✓ 60 70	中2	動物の行動とからだのしくみ ✓ キ100 チャ100 キミ100						
					中2	大気の動きと天気の変化 ✓ 70 50 70 90 100								
	英語	Let's Enjoy English! ノート テスト 90	英語	Hill ノート テスト 80	英語	On the Way Home ノート テスト	英語	1/23 (金) 面談 1/26 (月)～2/19 (金) までの学習方法	英語	1/25～様々な化学変化 1/29～化学変化と物質 2/2～電流のはたらき 2/6～静電気と電流 2/10～電流と磁界 2/15～直前全範囲見直し				
			英語	At school ノート テスト 60 80	英語	A Summer Festival ノート テスト	英語	上記スケジュールにて学年末テスト50点超えに再挑戦する ①デキタスでの学習 自力で穴埋め→動画を見ながら答え合わせ→自力で埋められなかった箇所をチェックし繰り返す。(自分が先生になり人に説明するつもりで)	英語					
			英語	The Teachers ノート テスト	英語	Breakfast Time ノート テスト	英語		英語					
その 他の 学び				中3 遺伝の規則性と遺伝子 ✓		中2 キミ 中2 キミ 中2 キミ						担任の先生より一言		
				【英語】 中学1年生から順番に学んでいこう。1ヶ月に3単元（10日間で1単元）がすすむ目安。キホン問題で80点を超えることを目指してみよう。単語も書けるようになると良い！										

毎月、進捗をチェックして進度調整を個人面談を通して行う。
また、学習内容のフィードバックを行い、生徒が困っているや新たに組みたいことがないかを確認する。

Point ! 計画をもとに支援員や教員が生徒と一緒に振り返る。
それを具体的に褒める。

実施内容（多様な学び）

和ルームでは、ICT教材デキタスに加え、生徒の希望を受け、生徒用タブレットにCode Monkey・Play Grounds・Viscuit・Garage Bandをインストールし、使い始めた。ICT支援員の協力でプログラミングゼミや音楽制作に取り組む姿が見られた。

また、「読書」も可能とし、時間を決めて図書館で司書からアドバイスをもらいながら興味がある本を探し、借りてきた本をそのまま和ルームで読む。

生徒たちはこのような多様な学びの中から、自分の興味があるものを見つけ、それに対して「必要な学習（基礎学力）」が大切と気づくことができた。

さらに、生徒の希望で教科担任に和ルームで授業を実施した。教科担任の空き時間を利用して、保健体育・家庭・英語・数学・道徳の授業を実施した。

（個別指導と和ルーム全体への2種類実施）



集団で数学の授業を受ける様子。



個別に英語の指導を受ける様子。

Point !

生徒が学びたいことを引き出し、最大限に応える姿勢
さらに、関係者間でスピーディーに情報共有し、常に「何ができるか」を
検討

実施内容（関係者間での情報共有）

情報共有ツール：Studyplus for school（<https://for-school.studyplus.co.jp/>）を利用して、

a. 事業者間での連絡事項や相談

事務的な連絡事項から、生徒への接し方や学習方法（内容）の相談



b. 生徒の個人カルテ作成

1人1人にカルテを作成し、和ルームでの様子を共有（学習内容・会話内容・体調面や精神状態など）

アウトリーチの様子も共有

c. チャット機能を利用して生徒と保護者と文章でやり取り

和ルームに登校できない自宅にいる生徒に対して、チャットでコミュニケーションを取ることができる。

訪問・電話の反応は薄くてもチャットには反応する。また、保護者も時間を選ばず連絡ができるので、支援の幅が広がった。

Point !

生徒ひとりひとりの個人カルテを、学校・家庭・事業者がタイムリーに情報共有できる最強のプラットフォーム！！！！

実施内容 (Studyplus個人カルテ例)

The screenshot shows a web browser window with the URL fs.studyplus.co.jp/sections/927946e956/kartes. The page displays a lesson log for a session on February 16th, 5-6 PM. The log includes a list of subjects and a detailed note about the student's preparation and feelings. Below the log is a comment section with a text input field and a 'コメントを入力' (Enter comment) button. The user '高山 恵美' (Takayama Emi) is logged in.

ID11が参加。あと少しで完成。
ID2019はテスト勉強をするために、参加せず。
次回の支援日は、2月24日（水）太田が訪問となります。

□ コメント

高山 恵美 コメントを入力 登録

ID 12 2021年02月16日 12:15 林美奈子

2月16日 5-6時間目

5時間目 理科デキタス、社会 水越先生と問題確認
6時間目 家庭科 牧先生の家庭科授業

社会は水越先生からのお題をまとめたノートを見ながら、確認問題を出してもらっていた。
理科は、試験範囲のデキタス。
家庭科は、試験範囲の座学でノートをきれいに作っていた(JMC報告の写真)
多科目において定期試験の準備をしている様子がうかがわれる。

なごみルームの外が騒がしく、しばらく下校を待った。
学年が違うのだが、知らない生徒でも、とにかくうるさいのが嫌だそう。
「ゆっくり帰りたいんで」とのこと。

□ コメント

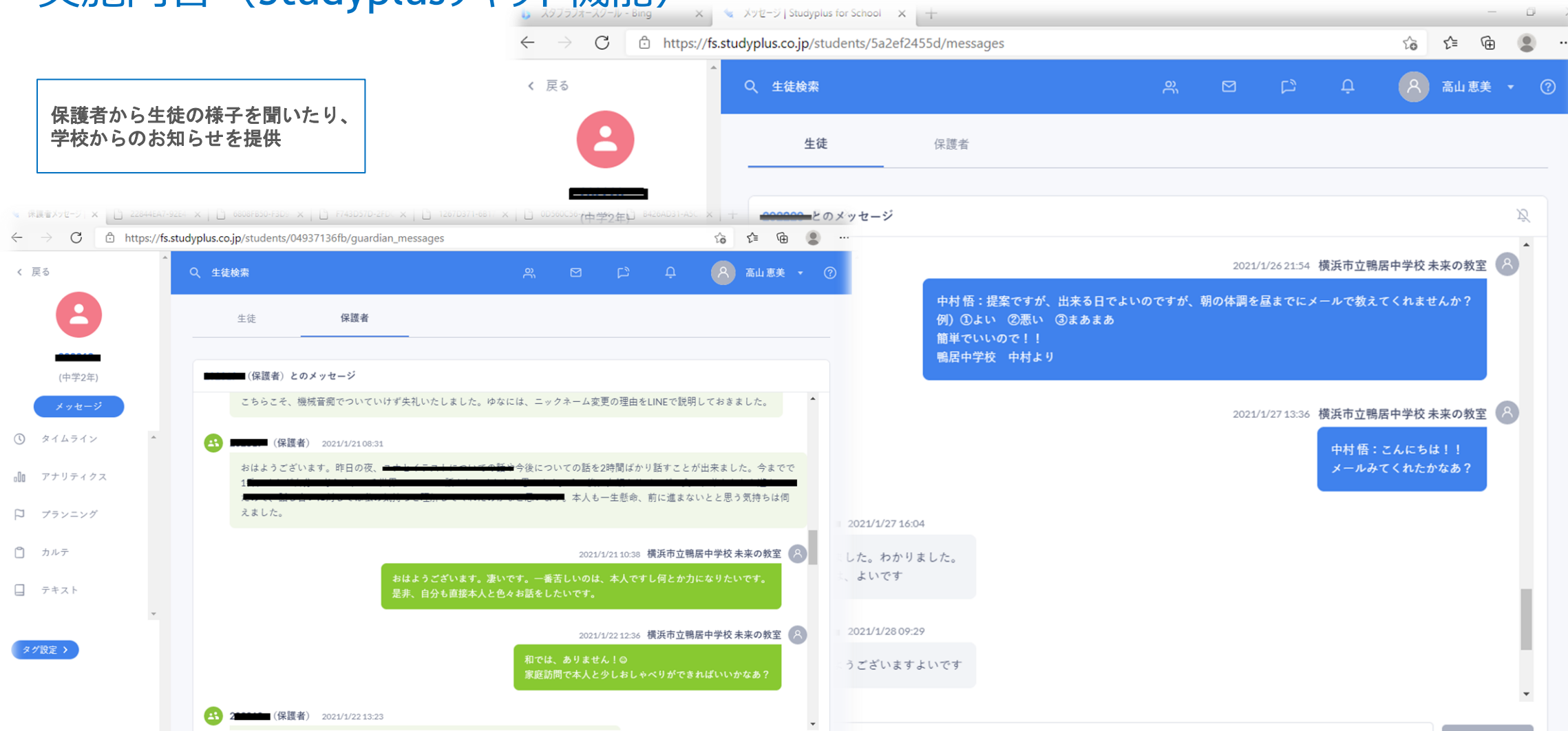
高山 恵美 コメントを入力 登録

Point !

1人1人、和ルームでの様子・学習内容・生徒との会話内容・
特記事項を毎日記録し、学校と事業者間で共有

実施内容 (Studyplusチャット機能)

保護者から生徒の様子を聞いたり、
学校からのお知らせを提供



Point!

和ルームに登校できない生徒とも、チャット機能で、コミュニケーションがとれる。また保護者から生徒の様子をうかがい知ることができる。

実施内容（PBL：話し合い学習）

「おしゃべり会」と称して、12月と2月に2回実施。

第1回目（12月）：生徒2名、学習支援員、ファシリテーター（城南進学研究社）、教員計5名で実施。

1回目のため、自己紹介＋興味があることを話した。参加した生徒は非常に満足度が高く、第2回リクエストの声がその場であがった。

また、午前実施だったので、午後に和ルームに登校する生徒も興味を示した。

第2回（2月）：前は午前のみの実施だったが、今回は午前・午後の2回で実施。

今回は参加する生徒から事前に話したいテーマを取材し、それを題材とした。

（「生まれ変わったら何になりたい？」、「将来の夢」）

午前は、生徒2名、学習支援員、ファシリテーター（城南進学研究社）、教員計5名で実施。

アウトリーチの対象生徒が家庭からzoomで見学。最後はみんなの話を聞いて、チャットで自分の意見や感想を伝えてくれた。

午後は、生徒3名、学習支援員、城南進学研究社社員、ファシリテーター（城南進学研究社）計6名で実施。

初参加の生徒は、非常に緊張していたが、自分の意見も上手に発言できた。

イベントのご案内
みんなでゆる〜く
「おしゃべり会」パート2

「和」なごみルームで学んでいるみなさまへ
12月大好評だった「おしゃべり会」パート2を開催します！
今回は午前と午後で2回実施します。参加希望時間をお選びください。
当日、「取りたいテーマ」も大募集します。

場所：「和」なごみルーム
日程：2月9日（火）
①11:40～12:25 / ②14:00～14:45

株式会社 城南進学研究社(デキタス)
キャトリ
おしゃべり会申込用紙

時間	年・組	氏名	取りたいテーマ

*「取りたいテーマ」が複数ある場合は、下記空白に記入してください。

Point !

生徒たちが安心して話せる場づくりをするために、参加者と話す内容を事前に生徒に伝達

実施内容（PBL：話し合い学習 感想）

- ・話す機会が増えて、前よりも人と話すことが増えた気がする。
- ・勉強になる話が聞けた。
- ・普段聞けないことを、言えたり聞けたりできてよかった。
- ・色々な人の話を聞いて良かった。
- ・普段聞いてもらえない話も、たくさん聞いてもらえる。



海外からの転校生も通訳をしてもらい、PBL見学しました。

Point !

同じ空間にいる他の生徒への興味・関心を引き出すことができた。

実施内容（多様な進路セミナー）

2月26日（金）実施

和ルームに通う生徒（中1・2生）の保護者を中心に、広域制通信制高等学校やサポート校などの情報提供を行う。それらの学校の特徴を1冊にまとめ、各学校の特徴や入学相談窓口を記載。

開催のきっかけは、事業者のアイデアを基に、和ルームに通う生徒の保護者のニーズを確認したことから実現した。

参加者は計9人。内、和ルーム利用者の保護者が3人で一般級からも2人参加した。

Point !

子どもの進路に不安を持つ保護者にも、多様な学び・多様な進路があることを説明。
進路選択の幅が広げることが可能。

1, 2年保護者の皆様へ

横浜市立鴨居中学校

多様な進路セミナー開催のお知らせ

昨年、中学卒業後の進路はますます多様になっております。そして、この流れはますます加速するものと思われまます。
いわゆる「高等学校普通科&職業科」以外の選択肢も増えています。この度、株式会社城南進学研究社の協力のもと、様々な進路先の情報を保護者の皆様へお伝えしたく、セミナーを開催します。

1 内容

- ・中学卒業後の、多種多様な進路について現況等を説明
- ・広域制通信制高等学校やサポート高等学校の情報を伝える

2 参加対象

中学 1, 2 年で、
広域通信制やサポート校への進路を考えている生徒の保護者 20 名

3 期日 令和 3 年 2 月 26 日(金) 16 時から

4 会場 学校図書館(C棟1階)

5 内容

- ・多様な進路についての現況 城南進学研究社 水野雅恭氏
- ・資料提供校より説明
(N高等学校、クラーク国際高等学校、星槎高等学校、明蓮館高等学校 など)
- ・質疑応答、懇談

6 申込み

右の QR コードを読み取り、所定のフォームに入力してください。
※申込み多数の場合は、先着順とします。また、会場が変更になるかもしれません。



実施内容（多様な進路セミナー 保護者感想）

- ・高校から直接、話が聞けてよかった
- ・選択肢が広がり、広く進路を選ぶことができる
- ・資料がもらえてよかった
- ・普通科以外の話も聞いた
- ・自分で調べるだけではみつけれない学校の情報も得られた



Point !

保護者だけで調べるには情報に限界がある
実際の高校の話聞くことで、視野が広がり選択肢の幅が増える

実施内容（アウトリーチ：訪問型学習支援）

教育支援協会南関東から訪問員を派遣。対象生徒は、2名。

学校が対象生徒を決定後、保護者に説明。当初、保護者の了承を得ても、本人が拒否するケースもあった。

2月現在、アウトリーチを行っている2名のうち、1名は和ルームに登校し、1名は、在宅している。

訪問時にタブレットを持参し、生徒と会話をしながらデキタスを使って学習する。自宅でもデキタスで学習できるように、学校からタブレットとWi-Fiを貸し出す生徒もいる。

訪問日数と時間が限られるため、Studyplusのチャット機能を利用して平日は学校から生徒へメッセージを送信し、やり取りしている。

同じように保護者にも連絡し、生徒の様子を報告・相談している。

チャットでのやり取りは生徒も保護者も手軽で、敷居を低く感じ、従来の電話・訪問よりもコミュニケーションが円滑になった。

Point !

【アウトリーチスタート時の留意点】

①保護者への丁寧な説明 ②生徒・保護者の気持ちへ寄り添うこと ③訪問支援事業者との密な連携

成果①

「個別最適な学び」において、ICTが有効活用できることを実証する。

	目標	実証できたこと	要因
1	ICTを活用した「教室」以外での場作り	<ul style="list-style-type: none">・学習の柱として、教科書対応したEdtech教材が有効であった。・義務教育9年分の教材があることで、学習の遅れがある生徒に学び直しが可能になった。・個別最適な学びを可能にするためには、個々の得られた情報をタイムリーに関係者間で共有できるICTツールが大変有効であった。	デキタス、StudyPlus
2	個別学習計画の作成	<ul style="list-style-type: none">・個々の学習意欲に寄り添った結果、学習習慣が定着した。・ICTにより学習ログが可視化されているため、客観的な振り返りが可能になった。	学習支援員、事業者、教員
3	出席認定	<ul style="list-style-type: none">・アウトリーチ対象生徒は、訪問支援員が訪問し、学習している時間を確認し、出席認定とした。	訪問支援員
4	学習評価への反映	<ul style="list-style-type: none">・和ルームの生徒は、学習内容を評価に反映させている。・アウトリーチの対象生徒は、可能な限り評価材料を収集している。	学習記録

成果②（生徒アンケート）

和ルーム利用者5名から無記名でアンケートを実施。（1名は「話し合い学習」不参加のため、未回答）

	役に立つ	まあまあ役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	役に立たない
①和ルームはあなたの学びに役に立っていますか？	4		1		
②ICT教材を和ルームで利用できたことは、あなたの学びに役に立ちましたか？	4	1			
③話し合い学習は、あなたの学びに役に立ちましたか？	3	1			
④先生や支援員によるサポートはあなたの学びに役に立ちましたか？	4	1			

【生徒感想】

- ・和ルームに来てから勉強する回数が増え、学校に行きやすくなった。
- ・少人数なので勉強しやすい
- ・静かで人が少なく、勉強しやすいです
- ・自分の好きな時間に好きな勉強ができる

昨年と比較すると、①・②の数値変化はなし。
 ③は「役に立つ」は昨年1名だったのに対し、3名に増えている。
 ④サポートに関しても昨年は「役に立つ」は2名だったのに対して、4名に増えていえる。
 ICT教材を利用して、「個別最適な学び」が昨年から引き続き提供できている。
 今年はさらに、週2回派遣の民間支援員に加え、専任の先生、空き時間を利用して教員が個別に授業を実施してくれるなど、人との関わりが増えた。
 そのことにより、生徒は一層サポートを体感できた。

成果③（教員アンケート）

教員23名から無記名でアンケートを実施。（3名はStudyplus未利用のため未回答）

	有益	まあまあ有益	どちらともいえない	あまり有益ではない	有益ではない
①多様なICT教材を和ルームで利用できたことは有益でしたか？	21	2			
②Studyplusを活用した生徒情報の共有やコミュニケーションは有益でしたか？	9	3	8		
③民間の支援員の配置は有益でしたか？	21	1	1		

【教員コメント】

- ・一斉授業では指導しきれない部分において、生徒にとって有益だったと思う
- ・書字に困難を抱えてる生徒にとって、ICTを使用できることは負担が少ない
- ・さかのぼって学習している姿が見られ、生徒たちの自信につながっている
- ・なかなか登校できない生徒にとって、安心して学べる環境になった
- ・生徒が自ら教材を選んで、学習を進めやすい。個別最適化が進められる

①ICT教材利用に関しては、昨年は「どちらともいえない」が1件あったのに対して、今年は「有益」と全教員が感じた。学習の個別最適化だけでなく、教員の負担が軽くなった実感を得てもらえた。

②民間支援委に対しても非常に好意的で、昨年は「まあまあ」が4件だったのに対して1件となり「有益」が増加した。教員とは違う立場の人間がいることにより、生徒が話せる機会が増えたことが、生徒にとってプラスと感じたようだ。

Studyplusは利用している生徒が限られていたため、使用する教員も限定的だった。そのため、利用頻度が教員によって異なった。

成果④

【生徒】

- ・基本的に使用する端末を決めて i P a dと付属品を自己管理（職員室まで借りに行く・返却する、充電、など）することで、昨年度のように他人に遠慮することなく使えるようになった。
- ・Wi-Fiの環境が良く、ほぼ切断されることなくインターネットに繋がったため、デキタスなどオンライン利用のソフトも継続的に利用できた。
- ・操作方法をある程度修得し、内容を気に入れば（ユーザーインターフェース、レベルなどが自分に合っている）、誰かの手を借りることなく一人で学習を進めることが出来ていた。
- ・学習計画を立てると、取り組むべき科目の学年、単元が明確になり、実力を認識し、目標を持って学習に取り組むようになった。
- ・学習の結果を確認するようになり、学習のパターンが習慣化すると、学ぶ科目を増やしたり、時間の配分を自ら考えて積極的に学習が出来た。

【横浜市への働きかけ】

- ・不登校支援重点校が8校から2021年度は20校に増加する。
- ・それぞれの学校の取り組みを共有できる場ができると良い。

成果④

【アウトリーチ】

・学習支援を通して、学習以外の相談へつながった

⇒学習支援を通して、生徒の葛藤に寄り添うことが可能。そこから「どうして学校に登校できなくなったか？」、自分の進路に関する相談など、学校では知ることができない生徒の情報を得ることができた。

・アウトリーチから学習以外の活動へつながった

⇒zoomを使用してPBLの参加

・従来のアウトリーチとは異なり、事業者間でStudyplusを通して情報共有や相談を事前に行える。

⇒学校・支援員・家庭の連携を通じたアウトリーチが可能となった。

課題

- ・ I C T 利用のメリットを認識していない、I C T 利用学習が習慣化していない生徒にとっては、端末の自己管理は躊躇し、利用を遠ざける原因のひとつとなり得る。

いつでも気が向いたときや、支援員が必要と感じた時に自由に使えるように準備しておく環境も必要かと思われた。

- ・生徒に合った適切な使い方が出来ていないことがある。

全ての機能や利用方法を知っているわけではなく、限られた機能を使っただけで自分に適切か判断していることもあった。

実際には、知らない機能が多くあり、生徒に合わせて紹介すると利用するようになった。それを管理する人材あるいは機能があれば良いと感じる。

(今回の実証事業では学習支援員が担当)

- ・支援員が在籍している曜日や時間だけ登校している生徒がいる。今後、和ルームで支援員がいないときの生徒への支援体制の構築
- ・学びの多様化で複数のツールを生徒に与えている。教科学習とのバランスの取り方。
- ・教科担任の空き時間で、「授業」を実施したが、技術・実技系の学習の提供をどうするか？（ICT教材の限界）
- ・横浜市内公立中学校と不登校支援に関して情報共有

まとめ・今後に向けた示唆

- ・デキタスを利用した学習における「観点別評価」の作成
- ・実技指導の取入れ（zoomやmeetを利用した、家庭科や体育の提供）
- ・様々な理由で教室で参加はできないが、「授業は聴いてみたい」という要望に応えるため、教室授業のライブ配信、オンデマンドなども利用
- ・Studyplusのチャット機能を利用して生徒とのコミュニケーションが可能になった。それは生徒へどのような変化をもたらせたか検証（学習面・精神面）
- ・各学校の状況は様々だがICTを活用していけば、「教室以外での場作り」は十分に可能である。